

インフルエンザ予防接種補助拡充

季節性インフルエンザ流行期に新型コロナウイルス感染症が重なることが予測される中、県はインフルエンザ予防接種に千円の補助を新設。町は開会中の9月議会に補正予算案を提出。24日の予算決算常任委員会でも可決しました。28日(月)の本会議で可決する見通しです。県内各市町で党議員が同予防接種補助の拡充を当局に求め、また、医師会とも懇談してきたことが実った形です。

	甲良町	彦根市	豊郷町	多賀町	愛荘町
①65歳以上、 ②60～65歳未満 の手帳保持者	全額	全額	全額	全額	全額
妊婦	全額	全額	全額	全額	全額
6ヵ月～12歳	2000円	2000円	2000円	調整中	調整中
13歳～15歳	2000円	2000円	2000円		

※「全額」＝市町が負担する額、自己負担はゼロ ※「調整中」＝2000円になるよう調整中 (上記は担当課が議会に提出した資料より作成)

なぜこんなことに？ を検査

予防接種補助拡充などの補正予算が提出されたこと、下水道特別会計の資金不足比率の重大ミスの発覚に伴い審議やり直し等で、24日終了できず会期を28日(月)まで延長することに。さらに、O氏の失職問題、下水道会計の重大ミスを検査する議案提出。9時から全協(予定)その

甲良民報

2020年9月27日 805号
発行責任：日本共産党甲良町議員
連絡：甲良町在士373(西澤)
Tel：38-4949 Fax：38-2242

◆「まずは自分でやってみる…」とは、菅さんがめざす社会のあり方を語った中の言葉だと知って、「だったら税金取るな!!」と、がぜん怒りが沸いてきました。このコロナ禍の中、収入が途絶える下で、命と健康に深刻な不安を抱え、国民は個人では解決しがたい難問に直面しているのです。今こそ命と暮らしを守る政治が求められています。(伸)

・2020年9月25日「しんぶん赤旗」より

「自己責任」政治時代遅れ

安倍政権の「継承」を前面に押し出し、「自助、共助、公助」をスローガンに掲げた菅義偉新首相には、あきれられるばかりありません。

今までの新自由主義的な政策がさんさん社会を壊してきて、コロナ危機の中でその行き詰まりが明らかになりました。市民に自己責任を求め、政治はもはや時代遅れであり、そこから転換できない政治家に未来を切り開くことなどできるはずがありません。

元SEALDs KANSAI
塩田 潤さん

流れ
かえよう

安倍政権は他者に対する共感や想像力を決定的に欠いていました。自分と自分の「お友だち」のことしか考えない。自分たちのためには憲法

や民主主義の手続きさえも徹底的に無視して骨抜きにし、自由や民主主義、平和といった日本国憲法に明記されている価値を壊しました。

他方で、安倍政権が一番やりたかった明文改憲はできませんでした。市民の声・運動が安倍さんを追い込んだといえると思います。

2014年の特定秘密保護法以降、安保法制、戦争法、共謀罪、高度プロフェッショナル制度、検察庁法改定案など、出てきた法案がことごとくくむちゃくちゃでした。自衛隊「日報」隠しや森友・加計問題、「桜を見る会」などのスキャンダルも相次ぎました。

それに対し、市民は一回、一回、異議を唱えて声を上げてきました。その積み重ね

が、結果として「安倍改憲」の時間的な余裕を削ってきたのです。

声を上げることで、改憲より重要な課題がある」と、常に可視化してきたことも重要です。安倍さんは辞任表明の記者会見で、改憲への「国民的な世論が十分に盛り上がりなかった」と言いました。盛り上がりなかった背景には、市民運動の力があつたと思えます。

首相が代わっても、自由、民主主義、平和、個人の尊厳を守り、発展させるために運動することは変わりません。立憲野党が新自由主義的な政治からの転換で一致しつつあることは大きな前進です。

単に菅政権への対抗軸というだけでなく、何のため、誰のための政治なのか問われています。現場や運動の声、市民の日常生活に根差した政治を絶対に忘れないでほしい。

聞き手・写真 前田美咲



しおた・じゅん 2015年5月3日、神戸大学大学院在学中に仲間とともにSEALDs KANSAI(シールズ関西)を結成。シールズ関西として同年6～9月に数千～2万人規模のデモを毎月開催(共催含む)。関西市民連合の一員として野党共闘の実現・深化にも尽力。

ご相談・ご要望をどうぞ。 ☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123
©日本共産党の見解を紹介します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】